



鎌倉

源氏一統志

三



入達13
2211
3



八通
2211
卷 9

字

子辰
子冬
丑冬
寅
卯
辰
巳
戌

源氏一統志卷之第三

目錄

兵衛佐殿相州出張

附 大庭寄石橋山

三浦次郎義澄放火 並 石橋山合戦

附 與一義忠最期事

飯田五郎家義忠節

並 加藤大見佐々木以下勇戦事

北條宗時討死

本庄

竝工藤介自害 同頼朝七騎落事

飯田五郎尋逢佐殿

竝景時忠功事

鎌倉相承院觀音來由

竝頼朝管根山 江被落行事

源氏一統志卷之第三



洛下 馬場玄隆信意輯錄

兵衛佐殿相州出張 附大庭寄石橋山事

前右兵衛佐源頼朝朝臣ハ。廷尉兼隆ヲ誅伐アリ。悦

ビ玉フ夏斜ナラス。然レ共三浦ノ一黨カ多勢ニテ。

馳参ルベキト申タリシモ。海路ヲ隔テタレバ。今ニ

参着セズ。夏既ニ發覺セルトハ。軍勢微ナレバトテ。

猶豫セラルヘキニアラス。居ナガラ滅ンヲ待ンヨ

リハ。一先打テ出テ。運ヲ天ニ任スベシト。治承四年

八月二十日。伊豆相模两国ノ勢ヲ召具セラレ。相州

土肥郷ニ打出玉フ。相従フ輩ニハ。北條四郎時政嫡

男三郎宗時。次男小四郎義時。平六時定。藤九郎盛長。藤
介茂光。其子五郎親光。宇佐養三郎助茂。土肥次郎實
平。嫡子弥太郎遠平。實平カ舍身土屋。三郎宗遠。其子
次郎義清。同。弥次郎忠光。佐々木太。郎定綱。舍身次郎
經高。同。三郎盛綱。同。四郎高綱。宇佐養平。太政光。同。平
次實政。岡崎。四郎義實。嫡子佐那田。與一義忠。大庭平
太景義。舍身豐田。五郎景俊。堀藤次親家。加藤五郎景
負。嫡男藤太光負。二男藤次景廉。仁田。四郎忠常。天野
藤内遠景。同。六郎政景。中村太。郎景平。同。次郎盛平。天
野。平内光家。堀。四郎助政。七郎武者宜親。鯨嶋。四郎宗
家。那古谷橋次頼時。新藤次俊長。大見平次家秀。近藤

七国平。沢六郎宗家。平佐古太。郎為重。義勝房成尋。中
四郎惟重。中八惟平。小中太光家以下。義心鉄石ノ兵
僅三百余騎ヲ引卒アリ。早川虎ニ打出玉ヒ。爰ニ
合戦ノ評定アリ。土肥次郎實平進ミ出。當所ニ御陣
ヲ召レン夏甚以テ然ルヘカラス候。敵ノ多勢湯本
ノ方ヨリ山ヲ越テ。後口ヲ取リツ、候ハバ。味方
危ク候ベシ。石橋山ハ究竟ノ切所ニテ候ヘバ。此所
ニ御陣ヲ移サレ。然ルベク候ハント申ケレバ。佐
殿是ニ同じ玉ヒ。米嘴石橋ニ打出玉ヒ。山ノ半腹ニ
搦楯ヲカキ前ナル谷ヲ要害ニ取り。太道ヲ切り塞
カセテ陣シ玉フ。當國ノ住人。大庭三郎景親ハ。源氏

累代ノ家ノタリト云ヘドモ當時ハ平家重厚ノ者
ナレバ。兄景義ニ引分レ。佐殿ヲ討テ。平相國ノ感賞
ニ預ラント。舍弟保野五郎景久。渋谷庄司重國。糟屋
權守盛久。瀧口三郎經俊。河村三郎義秀。長尾新五為
宗。同新六定景。海老名源三季定。原宗三郎景房。同四
郎義行。熊谷次郎直實。曾我太郎祐信。毛利太郎景行
以下。宗徒ノ者共三百余騎。都合其勢三千余騎ヲ相
從ヘ。同キ二十三日。石橋山ニ押寄テ。一ツノ谷ヲ隔
テ。後口ニ海ヲ當テ陣ヲ取リ。源氏ノ方ヲ見ヤリタ
レバ。所々ニ搔楯カキ。白旗少々押立テ。靜マリ返リ
タル躰サレモ勢アリトモ見ヘサリシカバ。源氏ヲ

攻潰シ。分捕高名セン。我々ガ手裡ニアリト。悦ビ
勇マズト云フ者ナシ。其中ニ飯田五郎家義ハ。日比
志レヲ佐殿ニ通シ。カドモ心ナラズ。景親ガ催促ニ
從ヒ。寄手ノ中ニ加ハリ居シガ。如何ニモシテ佐殿
ノ御陣ヘ。馳參ラント思ヘドモ。寄手ノ勢道路ニ陣
ヲ連子タレバ。カ及バテ扣ヘタリ。係ル處ニ伊東次
郎祐親入道。三百余騎ヲ引卒シ。佐殿ノ陣取テヲハ
スル。後口ノ山ニ押寄屯セリ。前後ノ敵既ニ三千三
百余騎。味方ハ僅三百余騎。十一ヲ以テモ當リカ
タキ小勢ナレバ。叶フヘシトハ見ヘサリケリ。

三浦義澄放火並石橋山合戦 附 與一義忠策期事

受三三浦次郎義澄ハ舍弟大多和三郎義久同佐原十郎
義連叔父筑井次郎義行和田小太郎義盛舍弟小次
郎義茂同三郎義實多々良三郎重春同舍弟四郎明
宗以下多クノ一族共ヲ相催シ佐殿ノ味方ニ参
タメ三百余騎ニテ昨日衣笠ノ城ヲ打立鎌倉通り
ヲ腰越稲村大磯小磯ヲ馳過テ翌二十三日ノ未明
ノ比酒匂ノ宿ノ西ノ邊ニ陣ヲ取リシガ大
庭以下ノ者共佐殿ヲ襲ヒ泰ラセントタメ悉ク打立
ヌト聞ヘシカバ心ハ矢猛ニ思ヘドモ此程ノ大雨
ユヘ九子川ノ水カサ夥シク勝ツテ洩スベキヤウ
ナカリケリ義澄以下思慮ヲ巡ラシ即等共ヲ指遣

ハシ相換ノ因中ニアル処ノ平家方ノ者共ノ家々
ニ火ヲ放チ焼拂フベシト下知セシカバ士卒等所
々ニ馳散テ大庭以下ガ宿所々々ニ火ヲ放テハ炎
天ノ焦レテ焼揚ル石橋山ニ向ヒ陣シタル渋谷糟屋
首藤以下ノ平家ノ勢是ヲ見テ出火ナリト騒動ス
是親宗徒ノ者共ヲ集メ旁ハ如何思ヒ玉フ出火ナ
ランニハ一方ヨリ風ニ從ツテ焼行クベキニ所々
ヨリ焼上リヌルハ放火ノ煙ト覺ヘタリ察スルニ
三浦ノ一黨佐殿ノ味方ラセント打出タルガ我々
ハ館ニ火ヲ放テルト覺ヘタリヨレク其ハ是非ニ
及バズ相合戦ハ如何ニヤト云ヘハ海老名源三季

定進ミ出。今日八月既ニ夕陽ニ及ビヌ。夜軍ハ敵味
 方分明ナラサレバ。合戦ハ明日ニシテ至ヘト云フ。大
 虞聞テ。サレバトヨ明目ヲ相待程ナラハ。敵ニ多勢
 馳着テ。合戦難儀ニ及フベシ。其上三浦ノ者共。味方
 ノ後陣ヨリ攻カ、リナ、先後ニ敵ヲ受テ。申ミシ
 キ大事ニ及フベシ。此山ハ道狭フシテ足立アリキ
 切所ナレバ。敵ノ微ナルヲ幸ニ。只一戦ニ退落サン
 ニハ如シト云ヘバ。皆尤々ト同ジテ目サスモ知ラ
 兵ノ方ニモ三百余騎。エヒラヲ夕、イテ関ヲ合ス。
 佐殿ノ陣ニハ。法皇ヨリノ院宣ナリト云。御旗ノ

横上ニ付テ。中四郎惟重是ヲ持ツ。然レトモ實ハ高
 倉ノ官ヨリ成シ下サレシ。令旨ニテアリシトナリ。
 惟重カ父。永江藏人大中臣頼隆ハ。自キ幣ヲ上箭
 付テ。大将ノ御後口ニ伺候セリ。時ニ大庭三郎景親。
 馬ヲ陣頭ニ乗出シ。燈籠ハリ子杖ニスガリ。抑平氏
 ハ桓武天皇ノ御苗裔トシテ。效代朝家ヲ守護レ。四
 海ノ逆乱ヲ鎮ム。殊ニ當時入道殿ハ。大政大臣。從一位
 ノ先途ヲ究メ玉フ。去ニヨツテ日本六十余州。三寸
 ノ草葉ニテ。靡キ從ハスト云フコトナシ。然ルヲ流
 人ノ身トシテ。容易モ平家ヲ傾ントノ結講。膽ニ毛
 ノ生シ。佐殿カナ。急ニ堯登ヲ脱テ降人ニ水玉ハ。鷹

好ニ誓テ。一命ヲバ助ケ祭ラセントゾ喚ハリケル。其時先條四郎時政進ミ出充云フハ大庭三郎景親ト覚ヘタリ。余リニ無骨ノ申條。傍若無人ノ詞ナリ。コトモ愚ヤ我君ハ。清和帝ヨリ八代ノ御末。左馬頭義朝ノ三男ニテ坐セハ。正レク皇氏ヲ出玉ヒテ遠カラス。平家ハ朝成ヲ輕ンレ。雅意ヲ奉勅逆賊ニヘ。急ギ誅伐スベキ旨。太上天皇ノ院宣ヲ頂戴アリ。錦ノ袋ニ入レテ。御旗ノ幟本ニ付ラレタリ。何ゾ拜レ奉ラサル。其上君父ノ節ニハ。共ニ天ヲ戴スト云ヘハ。故頭殿ノ讎ヲ報ゼンタメ。此二十余年。君臣共一心ヲ苦シメテ。今逆徒誅戮ノ義共ヲ奉玉フ。汝モ源

氏譜代ノ士ナラスヤ。人倫ノ教ニ泄スンバ。覺整ヲ脱テ伏セテ平伏セヨ。累代ノ君ニ向ツテ矢ヲ發テ。善帝ノ院宣ヲ馬ノ蹄ニカケン。夏天罰ナトカ道ルベキ。急ギ馬ヨリ下リ。頭ヲ押イテ陳謝セヨト申サル。景親童子テ。先祖ハ誠ニ主君タリト云ヘドモ。當時平家ノ重恩ヲ蒙リタレバ。爭カ舊主ヲ顧テ。今ノ恩ヲ忘ルベキ。佐殿ヲ生捕リ。汝等カ首ヲ切リ。双ベン。夏今夜ノ申ヲ出ベカラスト。答ヘケリ。時政腹ニ居カ子。キヤツニ物ナ云ハセソ。射取レヤト下知セラレバ。精兵ノ手タレ共。矢先ヲ擲ヘテ。敵々ニ射ル。景親モアヤマテシテハ。悪カリナントヤ

思ヒケン。手綱カイクリ引入ケリ。頼朝大ニ怒リ玉
 上。折飾御前ニ。用崎四郎義實候シケレバ。御邊カ嫡
 子與一ヤアルト宣へハ。サン候ト申テ御前ヲ立急
 キ與一ヲ相具シ出ル。與一カ其夜ノ出立ハ。緋地ノ
 錦ノ直垂ニ。赤威ノ肩白ノ鎧ノ。裾金物打タルニ。長
 袴輪ノ太刀ヲ帯キ。搦烏帽子ヲ引込ミ。中黒ノ矢ノ
 二十四指タルヲ肩塗籠藤ノ弓ヲ平メ。大將軍ノ前ニ
 踏居セリ。佐殿見玉ヒ。大庭カ無礼ノ廣言既ニ言語
 ニ絶シタリ速ニカケ散ラセヨト宣へハ。長テ候
 御前ヲ立ツ。佐殿又召返サレ。御邊カ鎧ノ毛バヤニ
 見ユルニ。著替ヨカレト宣へハ。義忠承リ。勇士ノ膽

一先陣ヲ賜ハソテ。ナトカハ勇マザラン。乳母ノ夫
 豊三保以下十五騎ヲ招從へ。一陣ニ進ンテ。三浦
 介義明カ舍弟。用崎四郎義實ガ嫡子。佐那田與一義
 忠生年二十五歳。源平ノ合戦ノ最初ニ手ナミノ程
 ヲ見スベシト。雷ノ鳴リ落ルカゴトク。喚キ叫ンテ
 カケ立ル其勢ニ決然トシテ。霹靂頭ヲ碎クガゴト
 ク。多勢ノ奇手標ニ強キ。只十五騎ニカケ立ラレ。四
 度路ニナツテ迷返ク。與一氣ニ乘テ。左ハ海右ハ山
 ノ岸ニシテ。其路サレモノ切所ナルニ。雨ハ車輪ヲ

流スカゴトク。目カスモ知ラヌ暗夜ナレトモ馬ニ
仕セテカケ五ル。大庭三郎景親大ニ怒リ敵ハ僅ノ
小勢トコソ覚ニレ。何程ノ夏ノアルベキゾ。與一ヲ
討テ高名セヨト下知スレバ。舍弟保野五郎景久長
尾新五為宗同新六定景原宗内即義行熊谷次郎直
實シテ洪谷庄司重國シテ龍口三郎經俊曾我太郎助信柳下
五郎岡部六弥太忠澄同弥次郎以下駈アル者共七
十三騎。佐那田一人ヲ討取ント。先ヲ争ヒ勇メトモ
切所ト云ヒ暗夜ナレハ。馬次第一打テ進ニタリ與
一ニ三ニ向ヒ。如何ニモシテ大庭カ。但シテ月兄金ノ
中一組ンテ。君ノ情リヲ散セント思フナリ。然レト

モ此間ノ所方ニヨリテ。カナク覺ユルナリ。若組ノ
ハ。沙落合テ敵ノ首ヲ取レト云一ハ。畏テ候ト云フ
外ニ。洗葺ノ鎧ニ。鹿毛ナル馬ニ乗ル武者一騎。樂
一ヲ目ガケテ馳来ル。佐那田大ニ悦ビ。是ゾ大庭カ
保野カ。兄弟ノ申ナラント思ヒ。馬ヲ馳寄ルトゾ見
ヘシ。用ノ天邊ヘ手ヲ打入レ。鞍ノ前輪ニ引付テ。首
フツト撥切レバ。鎧武者ノ躰ノ落ル背ニ敷キテ。佐
那田ガ乗タル馬。躍リ揚ツテ馳出ル。此馬ハ白葺毛
ナルカ。長七寸ニ余ツテ。鼻ノ先飄ノ花ノゴトクニ
自カリケレバ。夕顔ト名付テ。東国一ノ強馬ナリ。元
来三浦介義明ノ許ニアリケレトモ。容易ク乗得ル

者モナカリシヲ。因崎義實所望シテ乗ケル程ニ。少
シ乗和グテ後。三浦へ返シケレバ。本ノ極へ飯リタ
レバトテ。都飯ト号セシヲ。折節義忠心ニ付ヒシ馬
ノナカリシカバ。又乞得テ。其名ヲ古真。飯リタレ
バトテ。嘗ト呼ケルカ。サシモ強馬ナリシカトモ。與
一剛強ナレバ。響ノ大キナルニ。手綱ニ筋ヨリ合セ
テゾ乗タリケル。與一心得引止ンクトシケレドモ。
馬ハ左右ナク駐ラズ。與一漸ク乘鎮ス。彼討タル首
ヲ。六キニ能ク見レハ。大庭ニモ。俣野ニモアラズ。
因部跡次郎ガ首ナリシカバ。浪打際へ拖捨。何
所ナルラント見廻セバ。一人モ續ク味方モナク。敵

中トハ覺ヘシカトモ。比ハ八月二十三日。亥ノ下。尅
ノコトナレバ。物ノアヤメモ見ヘ分ス。馬ノハヤリ
シマ。一ニ。深入りセシト思ヒシカバ。引返サントス
ル処ニ。武者一騎馳来リ。敵カ味方カト問フ。是ハ二
浦黨ニ。休利田與一義忠ゾ。和殿ハ誰ト云ヘバ。大庭
彦司景房ガ五男。俣野五郎景久ゾ。寄レ組ン。尤ト互
ニ馬ヲ馳双べ。引組テ百ト落上ニナリ下ニナツテ
コロビ合シガ。サシモ俣野ハ大カナリシカトモ。終
ニ佐那田ニ組伏ラレ。叶ハジトヤ思ヒケシ。俣野ノ
ノ。佐那田ト組ツレ。味方ハナキカ落合ヘヤツト喚
ハレバ。佐那田トモ赤色ヲ揚ケ。與一コソ敵ニ組ンダ

レ落合へ下者共ト喚ハツタリ。長尾新六定景此言
ニ驚キカケ来リケルガ。目指モ知ラヌ。暗夜ナレバ
何レヲ敵トモ分チ得ズ。俣野ハ上カ下カト問フ。與
一心早キ男ナレハ。傳ツテ上ナルハ景久ソ。佐那
ヲ組伏セタリ。過チシ玉フナト云フ。俣野ハ下ヨリ。
イヤく上ナルコソ與一ヨ。人違へスナト云フ。惡人
與ハ一所ニアリ。色ハ息ヅキテ分明ニ知リガタシ。
長尾モ喚レテ立ケレバ。俣野下ヨリ愚ナリ長尾殿。
鏡ノ毛ヲ探リテモ仰リ玉へト云フ。與一南無三寶ト
思ヒ。長尾ガ近ヅキ寄ル処ヲ。右ノ足一テ胸板ヲ確
ト踏ム。踏シハ三間ハカリ。後口へ走ツテ倒レタリ。

其間ニ與一 刀ヲ拔テ。景久ガ首ヲ截ントスレドモ
切レズ。ヒ夕突ニ突トモ通ラズ。コハ不審ヤト。雲ス
キニ振上げ見レバ。鞘卷ノ葉飛散テ。鞘ナガラ拔タ
リ。鞘尻ヲ口ニクハへ。是ヲ拔ントセシカドモ。岡部
ヲ討タルトキ。馬ノイツサンニ驅出シカバ。刀ヲ拭
ハデ指ツルユへ。血ヅマリシテ。拔サリケルコソ不
運ナレ。係ル処へ。新六起上ツテ又近ヅキ寄り。佐那
田ガ甲ノ天邊ヲ引仰ノケ。終ニ首ヲ搔落ス。俣野起
揚ツテ大息ツギ。愕然トシテ立シカバ。手ヤ肩タル
ト問フ。何トヤラン。頭ノ重ク覺ルソトテ探リ見レ
バ。首ノ廻リニ血流レタリ。刀ヲ見レバ。理リテ。幾

夕突タリト覚ヘテ。朝尻一才計リ碎ケタリ。斯テ義
忠カ首ヲ。太刀ニ指貫キ。佐那田與上義忠ヲ。俣野五
郎其久。長尾新六定景。丙入相討ゾヤトゾ喚ハリケ
ル。豊三家保ハ。主ノ與上ニ離レ。此彼ト尋子レカド
テ。故ハ山ニ充満ス。尾ハ一ツ隔タリス。死生ノ間ヲ
知ラサル処ニ。敵陣ニ佐那田與一ヲ討タリト言リ
シカバ。今ハ何ヲカ期スベキト。糟屋權守盛久カ陣
ハカケ入テ。無二無三ニ相戦ヒ。糟屋ガ即等ト組テ。
指違ヘテ伏重ル。其余ノ者共モ。思々ニ討死ス。武藤
三郎。賢ヨリ数回相戦ヒ。朱ニナツテ働キケルガ。
河村三郎義秀ト組テ討レニケリ。

飯田五郎家義忠節。加藤大見佐々木以下勇戦。車
去。在源氏ノ方ニハ。土肥。土屋。佐々木。兄身。加藤。宇。佐
兼。天野以下。爰ヲ詮ト防ギ戦ヒシカドモ。寄手多勢
ナレバ。復共セス。入レ替ク攻立ル程ニ。士卒過半討
死ス。岡崎四郎義實。佐殿ノ御前ニ参リ。與一冠者コ
ソ敵ト組ンデ。討死仕リ候ヘト申セバ。佐殿聞キ。敢
至ハズ。宥心憂ヤ。可惜勇士ヲ討セツル者カナ。御邊
ガ心中推量リツルゾヤトテ。頗リニ落涙シ玉ヘバ。
岡崎承リ。假令五人十人ノ子共ヲ皆討セ候共。君夕
ニ御本意ヲ達セラレナバ。何カハ歎クコトノ候ハン
ト。聞モス。トレキ詞ノ申ニ。泪ヲハラクト流シケレ

バ。佐殿モ弥鏡ノ袖ヲゾ濡シ玉ヒケル。寄手ノ方ニ
佐那田ヲ討テ。勇々進ム。復浪リナク。新卒ヲ以テ入
替々々攻立シカバ。源氏方ノ勇衆等。計レテ死ス
ルヲモ顧ズ。義ヲ金石ニ比シ。命ヲ鴻毛ヨリ輕ンジ
テ。豆ニ勇ヲ勵マシ義ヲ進メテ。引ナクト戦ヒシカ
六。士卒多ク討レ。残りシ者共モ。傍手深手負ヌ者モ
ナカリシカバ。佐殿今ハ如何ニ思フトモ叶フマジ。
夜明ナバ。赤難儀ニ及ブヘケレバ。暗キニ紛レテ一
先落テ見バヤトテ。曉天ニ及ンテ。殘兵等相従ヘ。土
肥ノ方ヘ落玉フ。大庭ガ勢ヲ見テ。須破源氏ハ落
行ゾ。進カケテ高名セヨト。群リ立テ競ヒ進ム。矢ヲ

余ゾコト雨ノゴトシ。飯田五郎家義ハ。寄手ノ陣ニ
アリト云ヘトモ。佐殿ニ深ク志シテ通ハシケルカ
様々思慮ヲ巡ラシ。已ハ寄手ニ交リナカラ。手ノ者
六騎ヲ引分ケ。忍ビヤカニ源氏ノ勢ニ紛ラシ入レ
テ防カシム。六騎ノ者共。源氏ノ勢ノ躰ニモテナシ
尊々ニ防ギ戦ヒシカバ。其間ニ佐殿ハ。土肥ノ楯山
ノ内。御崎ノ堀口ト云フ所マデ落来リ玉ヒ。爰ニテ
暫ク士卒ノ息ヲ休メ玉フ。係ル處ニ。大庭三郎景親。
三千余騎ヲ引卒シ。嗚キ叫ンテ追カクル。加藤次景
廉。犬見平次實政。味方ヲ落シテ後陣ニ二人躡止マ
リ。敵々ニ防キ矢射ル。景廉ガ父ノ加藤五景實政

カ兄ノ大見平太政光共ニ子ヲ憐ニ身ヲ思フガユヘニ。
二騎取テ返シ。一足モ退シト相戦フ。寄手多勢ナリ
ト云ヘトモ。只一筋ノ細道ニテ。二騎三騎ツ、寄ケ
レバ。加藤大見ニ射スクメラレ。誓ヒ漂ヒ居ル処ニ。
萩野五郎俊重。兄身子共五騎ニテ追カケ来リ。云ヒ
甲斐ナキ者共ノ敵ノ追ヤウヤ我々ニソバケヤト
テ。新テ手ヲ以テ政戦フ。敵手シケク追カクルヲ見テ。
佐々木四郎高綱。堀平四郎助政。天野藤内遠景。同平
内光家。堀藤次親家等。我モくと取テ返シ。大将ヲ落
シ。衆ラセント。鬼ヤ色ヲ揚テ防キケルガ。寄手矢石
ヲ飛スコト。雨脚ヨリモ茂カリレカハ。加藤大見。天

野以下。多クハ馬ヲ射倒サレテ下リ立タリ。敵ノ以
レ猶豫ヲヲ見テ。加藤大見以下ノ輩。軍ニハ仕疲レ
ヌ。唱テ退ント引行ク処ニ。萩野。深谷以下ノ者共キ
タナシ返セト言ツテ。既ニ間近ク追カクル。中ニモ
萩野五郎俊重。佐殿ヲ追カケ衆ラセテ。大將軍トコ
ソ見表ラスレ。及バヌ謀叛ヲ企テ。正ナクモ敵ニ後
口ヲ見セテ。源氏ノ名折リラシ玉フ者カナ。返シ玉
ヘト喚ハリカクル。佐殿馬ヲ取テ返シ。近ブキ寄テ
楯ト射玉フ。其矢忽萩野ガ弓手ノ草摺ヲ縫サマニ
スハト立ツ。二ノ矢ニ車ノ前輪ヲ馬ノ背カケテ射
玉ヘバ。馬ハ慄ヘス。頻リニハヌル。萩野ハ前ヘ下リ

立ツタリ。三ノ矢ニ萩野彦太郎カ。馬ノ胸懸ウツツクシ
 ヲ射ラレテ。驍ウツレバ曼モ下リ立チケリ。佐々木四郎
 天野藤内堀四郎等。同ク續ツイテ返シ合ス。佐殿ハ元
 米手タレニテ坐マシケレバ。一筋ノ化矢モナク指詰
 引詰射至マヒケルガ。矢種ナクナリシカハ。太力ヲ我
 テカ、ラントシ至マフヲ。加藤次景廉走リ寄マリ。七
 軍ノ御身ニテ我々斯カテ候中。幸イカテテ御手ヲ下マセ玉
 フヘキト御馬ノ轡ウツヲ取テ山ノ方ヘ引退ス。佐々木
 源三秀義カ五男。五郎義清ハ。渋谷庄司ガ外孫ナリ
 シユヘ。奇手ノ勢ニ加ハリ居マシガ。赤草威ノ鎧ニ
 ノ馬ニ乗リ。真先ニ進マミケル。四郎御馬ヲ馳ウツ

セ。ヤソシレ義清ヨ。父ノ秀義ハ。故六條判官殿ト父子
 ノ約ウツフナシ。宇多清和ノ二流ウツヲカ子玉ヒ無二ノ忠
 臣ト喚ウツレ上マフ去マニヨワテ我々兄弟四人。御味方仕
 リ。一命ヲ石ニ奉リ。義ヲ金右ニ比ヒシテ。子孫ノ肩ウツ月
 ニ當ウツント欲スル処ニ海一人父兄ニ音ウツキ逆徒ニ與ウツ
 レテ。大庭カ虎舞ハ何哀ウツゾ。父兄ノ名折ウツシ不孝不義
 不忠ノ重罪人。人手ニハカク。ヘカラスト血眼ニナ
 フテ。義清スレガ。義清道理ニヤ服ウツシケン。馬ヲ引返
 シテ。返ウツキケル。大庭龍口士卒ヲ勇ウツメ云ウツ甲斐ナキ者
 共カチ。向ウツフハ高山嶺ヘタレハ。敵左右ナク登ウツリ得
 ジ。急ウツニ進詰悉ク討取レト。既ウツニ四五段ハカリニ攻

是レノ。佐殿今ハ遁レヌル。取テ返シ玉ヘハ。佐
ノ。四ノ高尾ノ口ニスカリ。斯ル大儀ノ思レ
名レ立ヌル上ハ。加藤ノ復五度モ十度モナトカナ
クテ無ヘシ。輕々レクモ匹夫ノ手ニ御命ヲ殞サセ
ル。御辱ヲ後代ニ残サセ玉ハンコト。口惜キ次第
ナリ。白一様キ候ハン。其間ニトクク御落候ヘシ。但
シ。御言ノ。御借レナサレ候ヘト云ハ。此上
ハ。高尾ノ。名。ウルゾ。宜ヒテ。又引返レ落玉フ。
其。高尾ノ。音揚ケ。隋和天皇九代ノ後。前右兵衛
。女ニアリ。東國ノ者共ハ。請代相傳ノ家人
。人倫ノ魂。アラハ。平伏レテ退ケト。取。指

諸散々ニ射ル。佐殿ヲ延シ奉ラセント。北條四郎時
政。嫡子三郎宗時。次男小四郎義時父子三人。天野藤
内。遠景加藤五景。貞同藤太光貞。同藤次景。廉宇。佐奉
三郎祐茂。同平次實政等。返シ合セテ相戦。坂ヲ下
リニ返シ合セク。七ヶ度マテ敵ヲ切りヲロレケレ
ハ。大庭候ヘ得ス。坂ヲ下リニ退退ク。其間ニ佐殿ハ
楯山ノ奥深く遁レ入り至ス。土肥次郎。藤九郎以下
ノ御供ノ人々モ。尤バカリノ嶮山ナレバ。鎧ニ太刀
計リニテ。木ノ根ニ取リ付。藜ヲヨチ。岩間ヲ傳ヒテ
這ヒ登ル。敵既ニ退キシカハ。此間ニ落行ント。皆々
引退ントレタリシガ。山嶮フルテ屏風ヲ立タル

カゴトクナリ。北條時政父子。數回ノ合戦ニ戦ニ疲
レ。進退心ニ任セ子ハ峯ヲ見アケタル計リニテ佐
殿ノ御跡ヲ追フテ。ヨチ登ラルベキカモアラサレ
ハ。空シク牙ヲ嚙テゾ居ラレケル。加藤五景。貞同。光
貞。同景。廉。宰。佐。希。三。即。祐。茂。同。平。次。實。政。等。此。時。ヲ。見
テ。北條殿父子ハ。大ニ戦ヒ疲レ至ヒヌレバ。嶺ニ登
リ至ハン。夏ハ叶フマシ。然リトテ。麓ニ互忍ビ至ヒ
ナバ。忽敵ニ搜シ出サレ至ヒナン。其トキ誰カハ見
ツギ奉ラセシ。我々御供仕リ。何方へモ落行キ候ハ
ント云フ。時政聞玉ヒ。各ノ志シ。謝スル期。自テ候ハ
シ。然レドモ大將軍既ニ供奉ノ勢モナク。今此危難

ニカ、リ玉フ。此時君ト死生ヲ思ハニレ玉ハンコソ
忠臣ノ道ナラメ。我々ハ誓ク何方ニ立忍疲ヲ少シ休
メテ後君ニ追著奉ラスベシ。トウク急キ玉ヘトテ
堅ク辞セラレケレバ。宰。佐。希。加藤以下。此上ハ仰ニ
從ヒ候ハント。時政父子ト立別レ。佐殿ノ跡ヲ追フ
テ。嶮山ニゾ攀登リケル。

北條宗時討死 並 工藤介自害 同 頼朝七騎落事

斯テ北條四郎時政ハ。是ヨリ何方ニモ落忍バント
思ハレケルガ。父子一所ニ落ンコトハ。謀ノ足ラサ
ルニ似タレバトテ。嫡男宗時ト引別レ。次男小四郎
義時ヲ相具セラレ。甲斐ノ国ヲ志シ。管根ノ湯坂ヲ

指テ落ラル、嫡子三郎宗時ハ、土肥山ヲ降り下リ
桑原ニ指カ、リ、平井郷ヲ落行レケル処ニ、早河ノ
邊ニテ伊東次郎祐親入道カ、軍勢共是ヲ見ツケ、
レ落人ヨト云フ程コソアレ、真中ニラツ取籠テ討
ントス、宗時元來武勇ノ譽レアル人ナレハ、コハ物
々レト云フマニ、三尺六寸ノ太刀ヲ、真向ニ指カザ
シ、敵中ニ躍リ入り、七、顛八、倒千、爰五、化、只、電光ノゴ
トクナレバ、敵、矢怖レテ、漂ヒ、騷クヲ、三方ニハツト
進、敵シ、其身疲レニ、疲レヌレバ、落得難クハ見ヘレ
ラドモ、一先遁テ見ントヤ思ハレケン、靜々ト落行
ル、小草井ノ名主紀六久重ト云フ者、スカサス追カ

ケ。返セ返セト詞ヲカクル。返スニ難キ莫カトテ。取
テ返サル、処ヲ。紀六引設ケテ、兵ト射ル。其、矢アヤ
マタス。宗時ノ胸板ヲ。後口ヘクツト射通セバ。慄ヘ
ズ百ト倒レラル。紀六悦ビ走り寄り、頓テ首ヲ搔切
リ、祐親入道カ陣ニ持行キレカハ。逆徒ノ張本。時政
ガ嫡子ヲ討取りヌル莫太ノ功ナリト悦ビ感スル
コト大方ナラス。入道ガ一子九郎祐清ハ。義アル男
ナリケルガ、北條ハ。豆州ニテハ宗徒ノ大名ナリ。至
カ情ナク當ルベキ。然レトモ首ハ京都ニ登スベケ
レバ、私ニハ計ラヒカタレトテ。伊豆ノ法華寺ニテ
宗時ノ菩提ヲ吊ハセケルトカヤ。爰ニ伊豆ノ国

任人。工藤、介茂、光モ。相山ノ巖壁ヲ攀登リ。佐殿ニ追
ツキ、柔ラセント。心計リハ急ケトモ、年老其身肥太
リタル故、氣疲レ、息絶テ、登ルベキ様アラガレハ。嫡
子將野、五郎親光ヲ招キ、我既ニ疲レヌ。此所、嶮山ニ
レテ、登リカタクシ。一定敵ニ追ツケラレ。討レヌ。上覺
ユルナリ。急ギ我首ヲ討テ、落行クベシ。是却ツテ孝
ナルベシト云フ。親光泪ヲ流シ、爭テカ去ル。夏候ベ
キト、父茂光ヲ肩ニ引カケ、木ノ根ニ取付、岩角ヲ踏
テ、攀登ラントシケレトモ、我身タニ登リカヌベキ
ニ。太リセメタル父ヲ、肩ニカケタレバ。這上リテハ
スベリ落チ。取付テハ、落一口ヒテ。更ニ遁ルベシト

手見、サリケリ。茂光、五郎ニ向ヒ、我ヲ助ケントシ
父子共ニ敵ノ手ニカ、ランコト。後代マテノ取
ナリ。早々我首ヲ討テ、トククト諫メケレトモ、白
テ子トシテ父ヲ討奉ント。泪ニムセンテ、頭ヲモ揚
得サレバ、然ラバ我首取テ早ク立退ケヨ。時、尅移ノハ
叶フミシト。腹十文字ニ掻切り、ウツブシニテ、ンテ
死シケレバ、親光カナク。瀧ノゴトクニ落ル泪ヲ、押
拭ヒク。南無阿弥陀佛ト諸共ニ、父カ首ヲ取り、鎧ノ
袖ニ引隠シ。泣々山ニソ登リケル。去程ニ右兵衛、佐
頼朝ハ、土肥、次郎實平。同、称太郎、遠平、土尾、三郎宗遠、
岡崎、四郎義實、新田、一郎忠氏、藤九郎盛長ヲ相見ル

ラレ。幸從只七騎ニテ指山深ク逃入リ玉ヒ。大ナル
 伏木ノアリシカバ。其トニ上リ玉ヒ。若敵ヤ追來ル
 ト。麓ノ方ヲ見ヤリ玉ヒ。暫ク息ツキ立玉フ。係ル處
 へ。加藤五景負同。藤太光負同。藤次景原。宇佐養三。即
 祐茂同。今次實政等。北條殿父子ニ立別レ。指山ノ巖
 壁ヲ攀辛フシテ。數町ノ險阻ヲ凌キ。佐殿ニ追ツキ
 乘ラセテ。悅フ。復限リナシ。佐殿モ御悅ビ。斜ナラス。
 旁万死ヲ出テ。一生ヲタモチ。今爰ニ遁レ來ル。復死
 シタル者ノ懸リタル心地セリト宜ヘハ。土肥次郎
 實平。遮ミ出。各身ヲ全フシテ。是マテ遁レ來リ玉ヒ
 レ。復其悅ニ詞ニモ述カクシ。然レトモ御伏ノ人々

多クシテハ。御遁レアラノ。復叶フマシ。實平當所ノ
 案内者タリ。君御一身ニ於テハ。某カ計略ヲ以テ。繼
 ヒ二十日三十日ニテモ。隠レ忍バセ奉ラン。旁ハトク
 ク何国ニモ落忍ヒ玉フベシト云ヘハ。宇佐養。加藤
 以下。聞モ敢ス。コハ土肥。忍トモ覺ヘヌ。復ヲ宣フ者
 カナ。君今網裏ノ魚籠中ニ鳥ノコトク。敵ノ田ミヲ
 ウケサセ玉フ。我々是ノ危難ヲ見捨テ。何国ヘカ遁
 レ候ベキ。君辱メラル。トキハ。臣死スト云ヘリ。其
 上我々日本国ヲ敵ニウケ。河地ヘカ落行キ候ベキ。
 只御供候ト云フ。佐殿ハ渠等志シテ。感レ別離ヲ
 惜ミ。御泪ヲ流シ玉ヒ。兎角ノ復モ宜ハス。實平重子

テ各ノ宣フ処。理^{コト}ニハ候ヘトモ。大勢ニテ此山中
ニ隠^{カク}レナハ。今ニ敵ニ搜^{サグ}シ出カレンハ必定。其トキ
ハ大將軍ヲ始メ。悉ク自害シ討死シテ。恐^{オソ}ニ及ハヌ
謀^{マカ}叛^{ハン}ヲ起^ヲシテ。何ノ仕出シタル莫^{ナク}ナク。家ヲ失^シ
身ヲ亡^シホシタルナンド後代マテモ笑^ハレンハ。口
惜^{アハ}キ次第ナラン。主從命ヲ全^クフセハ。縦^シヒ身ハ天竺^{テンシク}
震^シ且^ツニアリトモ。心ヲ合セ計^{ハカリ}コトヲ巡^メラサシニ。ナ
ドカ會^ア誓^{チカ}ノ耻辱^{チヂム}ヲ雪^スカテ候ベキ。然ルトキハ。今君
ト別^{ベツ}離^リシ玉フハ。後ノ大幸^{カチ}ニテ候ハスヤト。理^リ非^ヒ分^ベ
明^ミニ申セハ。宇佐義^{ウサノヨシ}加藤^{カトウ}休^ヒ々^々木^キ以下。此道理ニ信^シ服^フ
シ。佐殿ニ暇^{ヒマ}ヲ乞^コヒ。皆々退^ヒ散^{サン}シケルガ。離^リ別^{ベツ}ノ泪^{ナミ}ニ

目モクシテ行ベキ道モ覺^{サト}子トモ。思^シヒクニ落^リ行^キ
ケリ

飯田尋逢佐殿 並景時忠功事

飯^イ田^ダ五^イ郎^{ロウ}家^ケ義^{ノヨシ}ハ。兼^{カミ}テ志^シシテ佐殿ニ通^カハシケルニ。
平家ノ勢ニ隔^ヒテラレ心ナラス。大庭ガ手ニ属^クシ居
ケレドモ。程々源氏ニ忠ヲ尽^クシケルガ。佐殿ノ御^{ミコ}跡^ト
ヲ慕^シヒ。土肥ノ深山ニ尋^ヒ子^コ叅^シリ。思^シヒク外^{ソト}止^ムコトヲ
得^テズシテ。大庭ガ勢ニカハリ居候コト。心^{ココロ}外^{ソト}ノ至^リ
ニ候ナリ。初^{ハジメ}モ今^{イマ}曉^{サト}君石橋^{イシハシ}ヲ落^シサセ玉フ節。年^{トシ}比^ヒ御^{ミコ}
所^{トコロ}持^テノ念^{ネン}珠^{ジュ}ヲ落^シ置^カセ玉ヒ候ヲ。家^{イヘ}義^{ノヨシ}是^{コト}ヲ拾^ヒヒ得^テ
テ候エ。持^テ叅^シ仕^シリ候トテ指^{サシ}上^リレバ。願^{ネガ}朝^{アサ}大^ニ悦^ビヒ

王^レ。此^レ命^レ珠^ハ頼朝^年來^所持^{スル}ユヘ。狩倉邊ニテ。相模ノ國ノ者共。多ク是ヲ見知ルベケレバ。吾^レ是^レ戰場ニ取リ落シヌルコトヲ。後悔スル^ハ復甚^クシ。其^レ一ハ相模ノ者共是ヲ取リ傳ヘ。頼朝ガ念珠マテ取リ捨テ。逃ヌル^ハ復ノヲカレサヨ。能^ク命^ハ惜キ者カナ。最期ノ近ヅキヌレバ。念珠ヲコソ一^ハ大事ノモノニハスベケレナント。突ハレン^ハ復ノ口惜ク。今マテ是ヲ悔ヒ思ヒシニ。只今持来リレコト。甚忠志ノ至リナリト。感^シ稱^シ玉フコト斜ナラス。家義モ御供仕ルベキ旨強テ是ヲ聖トシヤドモ。七^ハ把^次郎様々詞ヲ尽シ止メケレバ。家義カナク。佐殿ニ暇ヲ告ケ。泣々其コ

リ飯リケリ。其^レ後藤^{九郎}盛長進^ト出。傳ヘ承ル。御先祖伊豫守頼義朝臣。後朱雀院ノ天喜年中。安倍貞任宗任ヲ攻サセ玉ヒケルニ。御勢大ニ討レ敗北シテ。僅七騎ニナリ玉ヒ。辛^クフシテ遁レ玉ヒシカドモ。終ニハ朝敵ヲ誅伐シ。誉レヲ後代ニ残シ玉フ。今君又七騎ニナラセ玉ヒヌル^ハ復。當家ノ吉例トコソ存ジ候ヘト云フ。必ニ土屋三郎宗遠敵ノ多勢登リ来リ候。云ヘバ。人々急ニ逃行クベキ方モナク。伏木ノ内ウツホニシテ。大ナル穴ノアリシカハ。主従七人。六内へ逃入りケリ。佐殿ハ心中ニ。今權大菩薩確護ノ御カヲ添サセ玉ヘト念ジ玉フ。係ル必ニ。大庭三

即景親舍弟候野五郎景久、梶原平三景時以下ノ多
山踊シテ谷峯草ノ中、萱ノ陰マデ、残ル処ナク
レケレトモ、佐殿ノ行方ノ知レザリシカバ、景親不審
ニ思ヒ、敵遠クハ落延マヅキニ、行方ノ知レザルコ
ソ怪シケレシ、此ウツホノ内ニ入テ、捜セヤ者共トソ
下知シケレシ、是ニ梶原平三景持ハ、源氏譜代ノモノ
ニシテ、父ノ太即身長故判官為義ノ厚恩ヲ蒙リシ
カバ、大庭カ催ニヨツテ、渠カ手ニ加ハリアリナガ
テ、志シ佐殿ニアリケルガ、此ウツホノ内、不審ク思
ヒ居ケレバ、アハヤト驚キ、如何モシテ遁シ奉ラ
セント思ヒ、大庭殿ノ宜フゴトクバ、元ナキハ此伏

木ノ内、究マリタレバ、即等共ニ捜サセンモ、覺
ナシ、如シ景時能々見テ衆ラント、弓脇夾ミ、太刀ニ
手カケテ、穴ノ内ヘツト入ル、佐殿ハ赤地ノ錦ノ直
垂ニ、赤糸威ノ鎧銀ニテ上、袴ノ袴ヲ、祝金物ニ打タ
ルヲ着テ、端近ク居玉ヒケレバ、孫更キラメキテ見
ヘケルガ、景時ソト入レバ、確ト目ト目ヲ見合セ玉
フ、佐殿スハヤト思シ召レ、太刀ニ手ヲカケ玉ヘバ、
景時目クハセシ、泪ヲ流シテ、モヲ束子尊敬シケレ
バ、佐殿モ泪ヲ流シ、打ウナツカセ玉ヒケリ、其時平
三邊リニ引タル蜘蛛ノ糸ヲ、弓ノ管甲ノ鉢ニカケ、
佐殿ニ一礼シテ出ケレバ、佐殿ハ只夢ノ心地シテ、

是八幡大菩薩ノ正シク景時ガ心中ニ乗移ラセ玉
ヒツルナラント。梶原ガ後口顔ヲ再拜シ玉ヒテ。猶
モ心中ニ種々ノ祈誓ヲカケ玉フ。景時ハ伏木ノ口
ニ立出。此内ニハ一人一人モ候ハス。只蝙蝠ノミ群飛
ヒ候ナリ。アレ見玉ヘ。土肥ノ真鶴ニ武者七八騎見
ヘ候。正シク是ゾ佐殿ナラント云ヘバ。景親頭ヲ振
リ。真鶴ヲ行クハ。雜兵共トコソ覚ユレ。如何ニシテ
モ此卧木ノ底覺束ナシ。景親入テ獲レ見ント云ヘ
バ。其トキ景時弓杖ツイテ。卧木ノ口ニ立塞ガリ。ヤ
アラ大庭殿トモ覺ヘヌ者カナ。頼朝ヲ討テ平家ノ御
感ニ預カリ。通分ノ恩賞ヲ賜ハラント思ハヌ昔

備ベキ。板コソ士卒共ニモ獲サセヌ。某入テ見定ハ
タリ。尤ナクバ斯甲ノ鉢子矢ノ端ニ蜘蛛ノ糸ノカ
ルベキヤ。察スルニ某ヲ二心アリト思ハル。ナ
ラン。左程マテ見落サレ。生テ何ノ面目カアル。三嶋
宮根。諏訪。八幡モ照覽アレ。推テ獲サント思ハン人
ハ。景時ガ首討テ後ニ入り玉ヘト。血眼ニ成テ仁王
立ニゾ立タリケル。此トキ八幡大菩薩ノ御加護ニ
ヤ寄ケン。山鳩二羽。ウツホノ内ヨリ飛出テ。ハタク
ト羽タ、キシテ去リケレバ。萩野海老名等是ヲ見
テ。梶原殿ノ宣フゴトク。入ナケレバ。コノ山鳩ハ飛
出ツラメ。今ハ疑フ必ナシト云フ。時ニ俣野、五郎進

ミ出詮ナキ入々ノ尸論カナ。無益ノ夏ニ時尅ヲ移
サバ。頼朝ヲ取逃スヘシ。何国マデモ尋子探シテ討
取ント。兄ノ景親カ手ヲ引テ。傍ノ峯ニ登リケレバ。
梶原長尾。海老名。荻野以下。三千余騎ノ軍勢共。同ジ
ク續イテソ登リケル。

録言相承院觀音來由並頼朝官根山被落行事

平家方ノ軍勢共。既ニ退散セシコバ。佐殿御悅ビ。鈿
ナラス。ウツホノ内ヨリ出玉ヒ。傍ナル巖窟ニ寄
リ玉ヒ。御髻ノ中ヨリモ。正觀音ノ像ヲ取出サセモ
ヒ。彼巖窟ノ内ニ納ノ玉フ。土肥次郎不審ニ思ヒ長
ハ如何ナルユヘニテ候ゾト云ヘバ。佐殿聞シ召シ

旁ハ其ユヘヲ知ルマシケレバ。子納ヲ語り聞スベ
シ。吾古自幡九ト号シテ。未三歳ナリシトキ。乳母ノ
女房。洛東清水寺ニ衆籠シ。吾將來ヲ祈リ。二七日籠
リシニ。夢中ニ老翁一人來リ玉ヒ。汝カ祈ル処切ナ
レバ。今是ヲ授與ス。嬰兒自幡ニ與ヘヨト。宣フト覺
ヘテ夢覺ス。乳母打驚キテ。見シハ。枕本ニ一寸ノ銀
ノ正觀音ノ像。忽然トシテ坐シキ。斯不思議ニ得奉
リシ尊像ユヘ。頼朝今ニ至ツテ三十二年片時モ身
ヲ離シ奉ラスト云ヘドモ。熟々愚案ヲ巡テスニ。此
度死テ遁レン夏カタカルベシ。若敵ニ尋子出サレ
自善セバ。髻ノ中ニ隠スト云ヘドモ。此尊像ヲ見出

スベレ。然ラハ頼朝源氏ノ大將軍タリトテ。謀叛ヲ
起セレニモ似ズ。心中ノ拙ナサヨ。是愚智無稽ノ尼
法師ニ劣リタリナンド。笑ハレノ口惜サニ。誓ラク
身ノ淨流ヲ極ル程。此窟中ニ安ジ奉ルナリト宣ヘ
ハ。實平ヲ始メ六人ノ輩薩埵ノ靈驗ヲ承リテ。信心
肝ニ銘ジ。且ハ佑殿ノ忌慮ノ程ヲゾ感ジケル。其後
佐殿源氏一統ノ世トナレ玉ヒテ。建久二年。鎌倉鶴
岡ノ西ノ方雪下ニ八幡宮ノ供僧トシテ。二十五ノ
菩薩ヲ形取リ。二十五坊ヲ建立シ玉フ。其中相承院
初ハ頓學ノ本尊ニハ。木像ノ正觀音ノ像ヲ安置シ
至フ。此本尊ノ頂ニ彼銀ノ正觀音ノ像ヲ納メ玉フ

今ニ及フマデ。相承院ノ本尊ハ。此薩埵ナリトゾ聞
ヘケル。既ニ其日モ黃昏ニ及ビケル処ニ。比條四郎
時政。及男小四郎義時ヲ相具シ。相山ノ峻阻ヲ漸ク
登リ得テ。佐殿ニ尋子逢ヒ玉ヒ。互ニ抱ヒ玉フコト
限リナレ。爰ニ管根別當行實ト云フ者アリ。父良尋
カトキヨリ。故六條判官為義。故左馬頭義朝ノ孫通
ヲ得レユヘ。行實京都ニ於テ。父良尋カ譲リヲ得テ。
管根ノ別當職ニ補セラレ。關東ニ下向セシトキ。故
判官殿ヨリ。行實若相催スコトアラハ。東國ノ輩悉
ク。催促ニ從フベキ由ノ。下文ヲ賜ハリシ。又義朝朝
臣ヨリモ。伊豆駿河ノ家人等。悉行實カ催促ニ從フ

へキ旨ノ下文ヲ賜ハツテ。相州ニ下向セリ行實此
舊恩ヲ思フガユヘニ。源氏ニ無二ノ志レヲ寄セ。佐
殿配所ニヲハセシ時ヨリモ。常ニ音信レテ寒暖ヲ
問ヒ泰ラセ。御祈禱ヲ致シ。專ラ忠貞ヲ捧ミケルガ
石橋山ノ合戦ニ。今曉源氏討負ヌト聞テ。行實大ニ
周章シ。様々心ヲ碎キケルガ。察スルニ相山ハ。峻隘
無双ノ深山ナレバ。爰ニゾ隠レ玉フラン。然ラハ飢
ツカレサセ玉フベシ。如何ニモシテ巡リ逢ヒ。當山
一御供レ来ルベシトテ。舍身ノ僧永實ニ。餉酒肴ナ
ントヲ持シメテ。忍ンテ相山ニゾ遣ハシケル。永實
峻阻ヲ攀テ相山ニ分ケ登リ。谷ニ降り峯ヲ傳ヒ。彼

方此ヲト尋レドモ。陰雨打掩ヒテ。物ノアヤノモサ
カカナラズ。梢ヲ分ル嵐ノ音ノミ。耳ヲ驚口カレテ
物スゴキ衰云フ計リナシ。山鬼趨跳。惟一足。峽猿哀
怨過三聲ト云ヒシモ。斯ル折カラニヤト思ヒ出テ。心
細ク行ク処ニ。北條四郎時政ニ巡リ逢ヒ。悦ブ夏限
リナシ。先々佐殿ハ何方ニ御坐シ候ゾ。大將軍恙ナ
ク。遁レサセ玉ヒレコト。公私ノ大慶是ニ過タル衰
候ハズ。兄行實が使トレテ。是マテ叅上仕リ候ト云
フ。時政心ニ思ハレケルハ。當時ノ人ノ心計リカタ
シ。若平家方ニ心ヲ衰レ。君ノ御在所ヲ窺ヒ知リ。討
奉ラントノ謀ニヤアルラント思ヒ。和僧ハ如何シ

テ君ノ遁レ至ヒツルヲ知リ至ヒシ。吾未^レ知ラ
ズ誰^レ人ノ語リシゾヤト問ハルレバ。永實^ニ聞テ其コ
ノ貴^ニ邊ノ只今宜^ヒヒレ処ナリト云フ。時政聞モ敢^ズ
我^レ曾^テ君ノ御^マ更^ラ云ハズ。今朝味^方敗^レ北セシトキ
敵ニ押^ヘ隔^テラレ。心ナラス別^レ參^ラセツルガ定メ
テ敵ノ罟^ミノ中^ヲ免^レ玉^フマジケレハ。御自^レ害^ア
リツルカ。又ハ生^イ捕^ラレサセ至ヒツルカ。二ツノ内^ヲ
出^ベカラズ。我^レ佐^レ殿ノ死^生ヲモ知ラスシテ。爭^テカ
恙^ナク渡^ラ玉^フト云フベキゾ。和^僧ノ聞^アヤマリ
ニテゾアルラント申サル。永實^サレバコソ。偽^リ
ヲ仰^候者カナ。吾^レ右^ハ承^ラズ候^ヘトモ。貴^邊無^異ニ

坐^ス上^ハ。君^急ナク渡^ラセ玉^フト宜^フニ同^ジ。其^ユ
へハ。佐^レ殿此^レ度^貴邊^ヲ以^テ爪^サ牙^ケ股^ト頼^ミ思^レ召
レ。朝敵^追伐^ノ義^共ヲ揚^玉フ。君^若討^死坐^ス程^ナラ
ハ。貴^邊何^ゾ生^テ斯^道レ玉^フベキ。貴^邊無^異ニヲハ
スル上^ハ君^恙ナク御^坐スト。宜^フニ相^同シ。君^定メ
テ飢^ニ及^ハセ玉^フヘケレバ。御^料ヲス、メ奉^ラン
タメ。斯^尋子^參リレ処ニ。愚^僧ヲ二^心アリト思^レ召
偽^リヲ宣^フ者カナト云ヘバ。其^トキ時^政打^答扱^メ
和^僧ハ才^智世^ニ起^{タル}人^カナ。去^ラバ佐^レ殿ノ見^參ニ
入^レ候^ハントテ。永實^ヲ俱^ヒ。大^將ノ御^在所^ニ參^ラ
ル。永實^見參^ニ入^テ悅^フコト大^方ナラス。餉^ヲ進^ス

奉レハ。佐殿ヲ始メ御供ノ人々モ。皆々飢ヲ助ケ
テ大ニ悦ビ勇ミケリ。佐殿御感甚ダシク。皆々口中
ノ食事ヲ絶テ。餓ニノゾム処ナレバ。直ヒ千金ニモ
奢カタク。吾世ニ出ナバ。汝ヲ以テ。管根山ノ別當職
ニ補スベシト。御契約ナサレケリ。此所ハ山中ニシ
テ。暫ラクモ御座アルベキ処ナラ子バ。是ヨリ管根
ニ赴クベシトテ北條岡崎土肥土屋以下ヲ召具セ
ラレ。永實ヲ案内者トシテ其夜管根ニ落行セ玉フ。
然レドモ行實ガ坊ハ常ニ衆詣ノ貴賤群ヲナセバ。
人ノ世レ抑ルコトモアリヌベシトテ。永實ガ許ニ
隠シ置奉ラセシカバ。佐殿ヲ始メ。相從ヲ輩モ少シ

生タル心ハ出来ニケリ。爰ニ永實ガ弟ニ智藏坊良
暹ト云フ者アリ。是ハ山本判官兼隆ガ祈禱師ナリ
ケルカ。忽惡徒等ヲ相カタテ。佐殿ヲ討奉ラセシ
ト相催ス。弟子ノ暹快法師大ニ是ヲ諫メ。二人ノ兄
君ニ背キ玉ヒ。逆心ヲ起サレンコト無義無道ノ至
リナリト。様々諷諭シケレバ。良暹大ニ怒リ。既ニ謀
スベキ氣色見ヘケレバ。暹快忍ンテ遁レ出。永實ニ
斯ト告ル。永實大ニ驚キ佐殿及ビ。兄行實ニ告知ラ
ス。行實急ギ佐殿ノ御前ニ参リ。弟ニテ候智藏坊隠
謀ヲ企テ候コト。言語ニ絶シ候ナリ。渠ガ武勇ニ於
テハ怖ルハニ足ラズ候ヘドモ定メテ陣中ノ逆徒

等ニ内通仕リ候ハン。然ラバ大庭。侯野以下ノ者共
馳来ツテ。取^リ廻^ミ奉ルベシ。片^シ時^トモ早ク何方へモ御
落候へカシト申ケレバ。佐殿ハ頼ム木ノ下^{モト}ニ雨ノ
夕マラス心^コ地^チシテ。同キ二十五日。土肥。土屋。岡崎以
下。并ニ永實ヲ召具セラレ。山ノ案内者ヲ先ニ立^テ土
肥。哪^カヲ志^シ。官根通^トリヲ落行キ玉フ。北條。四郎時政
ハ。甲斐源氏。武田。一^イ條。板垣ノ者共ニ告^ツ知ラセ。急^シキ
勢ヲ催^ヒシ。馳^ハ泰ルベキ旨ヲ相^ヒ觸^レラレヨトテ。是ヨリ
甲斐ノ国ニ指向ケ玉フ。是ニヨツテ別當行實^ヲニガ
同宿^ト南光坊ヲシテ。北條殿ヲ送^ラセ泰ラスル。南光
坊元^トリ案内ハ能ク知リヌ。樵夫ノ通^カヒダニ絶^レテ。

山^ノ脚^ノナラテハ行^キ通^フ者モナキ嶮^ク路^ヲ經^テ。甲州ニ
赴^キケルガ。時政熟々思慮ヲ巡^ルシ。甲州ノ味方ヲ
相^ヒ催^ヒストモ。佐殿ハ何^ト國^ニ坐^シスト問^フニ。知ラスト
云^フニ。誰^カハ。許^ス容^スベキ。一^ト先^ニ飯^ツテ佐殿ヲ尋^クテ。
御在所定マリテ後。甲州ニハ越^ベケレトテ。其ヨリ
引返シテ。土肥^ノ方ヘト尋^クテ行^キカレケレバ南光坊
ハ其ヨリ暇^ヲ乞^ヒ。本山ニゾ赴^キケル

木庄

源氏一統志卷之三 終

